

大 野 一 心

NO.5

令和4年4月22日（金） 文責：校長 諸熊 修一

「あすなろの日」について

新年度が始まって2週間が過ぎようとしています。どの学年も気持ちを新たにし、今年1年頑張っていこうという雰囲気には満ち溢れています。体育大会に向けての練習も本格的に始まり、新種目である「ソーラン節」の練習にも熱が入ってきました。部活動も各種大会に向けて、各部ともやる気に満ち溢れています。

このような時期、今から25年程前に、入学したばかりの一人の生徒が自ら命を絶とうとし、回復の願いもむなしく、その2年後の4月24日に亡くなりました。原因は、その生徒に対する複数の生徒からの心無いことばの数々でした。ご家族はもちろんのこと、関わった全ての方が深く傷つき悲しましました。

大野中学校では、本校で発生した痛ましい事案を二度と繰り返さないためにも、毎年4月24日を「あすなろの日」に設定し、新入生は「あすなろの日」の由来について知り、在校生は再確認することによって、日頃の自分の学校生活における言動を振り返ります（今年度は24日が週休日に当たるので、21日に実施しました）。このような取組をとおして今後のよりよい学校生活や交友関係につながっていくきっかけになればと思います。

昨日は全学年道德の時間に「相互理解・寛容」をねらいとして授業を行いました。もちろんこのような取組は一過性で終わるのではなく、6月に実施する「いのちを見つめる強調月間」での取組や年間を通して実施する人権・同和教育における取組等を通じながら、子どもたちの心を耕していきたいと思います。そして、「自分を大切するとともに他の人の大切さを認める人」に成長していったほしいと強く願います。

校長室前の花壇の一角に「あすなろの碑」があります。亡くなられた生徒のご冥福をお祈りし、建立（こんりゅう）されました。

